

## 歴博暮らしの植物苑だより

暮らしの植物苑観察会 第116回 11月22日(土) 13:30から 暮らしの植物苑東屋

『古典菊の品種と大名庭園の菊作り』 小笠原 亮 (江戸園芸研究家)

第117回 12月6日(土) 13:30から 第4土曜日ではありません。ご注意ください。

『サザンカの文化史』 箱田直紀 (元恵泉女学園大学)

今週のみどころ 歴博ホームページ 毎週更新

### 『伝統の古典菊』開催中



奥州菊展示風景



富山の雲



奥州菊 栄楽殿

### 奥州菊

奥州菊：奥州菊は宝暦年間、八戸の豪商、七崎屋判兵衛が京阪地方より菊を導入したのが始まりといわれている。その後青森各地に広がり、品種改良された地域によって3系統に分かれる。

奥州菊の特徴はなんと言っても、走り弁の面白さです。

青森型 掴み咲き：富山雲（ふざんのくも）大正3年、柴田房吉氏によって作出。

女掴み咲き、男咲き、雲咲きがある。

華厳咲き：華厳滝（けごんのたき）昭和43年、柴田房吉氏によって作出。

華厳咲き、華厳掴み咲きがある。

弘前型 抱え咲き：天津空（あまつそら）明治以降、佐藤春吉氏によって作出。

八戸型 実生栽培の伝統がある。現在も数多くの品種が作出されている。

女咲き：左右の掴み弁がもりあがる。

男咲き：前後の花弁がのび、三角形になる。

雲咲き：掴み弁が巻いたまま横向きにほぐれる。

華厳咲き：掴み弁は掴まず長く下段から上段に巻いて盛り上がる。

華厳掴み咲き：左右の掴み弁が盛り上がり、さらに盛り上がって2段、3段咲きになる。

抱え咲き：走り弁が中走り弁と伸び、芯弁は太く抱え盛り上がる。

菊つくりの名人奥技 第二巻 (農山魚村文化協会編 1997) より抜粋

# 嵯峨菊

草丈を1.8~2mにも伸ばす嵯峨菊。嵯峨菊は嵯峨御所（京都大覚寺）の回廊から眺められように草丈を伸ばします。7号鉢に3株を植え、下から7・5・3花ずつ3段に咲かせ、下部の茎葉は紅葉、枯葉さ春夏秋冬を観賞します。大覚寺のみで栽培され門外不出でしたが、大戦後、佐々木徳一氏が実生栽培で、黄、錦、白、桃の嵯峨菊を作出し、その後私たちも観賞できるようになりました。嵯峨菊も花壇で観賞することもあります。4色を斜めに配置した24鉢を配置します。

菊つくりの名人奥技第二巻（農山魚村文化協会編 1997）より抜粋

回廊は作れませんが、東屋の中に回廊をイメージした廊下を作ってみました。靴のまま歩いてください。



キチジョウソウ



畑ハウス江戸菊



サフラン



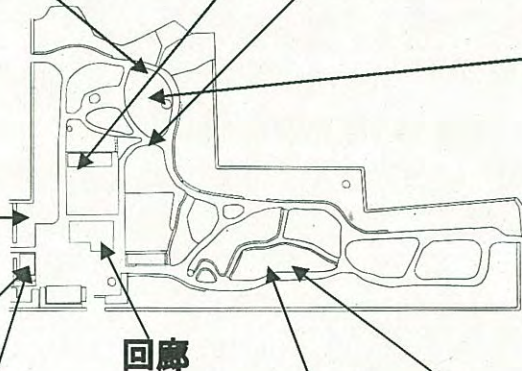
江戸菊



ツワブキ



丁子菊



回廊

# 奥州菊



秋の調べ



福雀